

C-8 ニットの縫製に関する研究(第2報) ニットの縫いずれについて  
東京学芸大教育 石もフミ子 群馬大教育 ○高木貴美子

目的 ジャージの縫製にあたっては、上下2枚の布のずれの大きいことが問題とされている。このずれは、どのような縫製条件のもとで最も著しくなり、また最少となるか、及び、家庭縫製においてはどのような方法をとった時、最もずれを少なくし得るか、以上2つの観点にたつて、各々縫いずれ量を測定した。

方法 1. 縫いずれ量の測定 条件を3項目とし、各々について3段階を設け比較した。試料布：ジャージA(毛100%)、B(アクリル70% 毛30%) 縫い糸：絹ミシン糸50番 試長：30cm くり返し数：5回 縫製条件：①針目の大きさ(3, 5, 7針/cm) ②押え圧(1-700g, 4-1000g, 8-2000g) ③縫い速度(6, 15, 30秒/30cm) ミシン：S社ジグザグミシン(家庭用)

2. 縫いずれ防止法 8条件を設定し、1と同様に縫製、測定した。条件：①5針/cm, 圧力1-700g, 30秒/30cm, 絹ミシン糸②(同左) ニット用ナイロンミシン糸③手によるしつけ④切りじつけ器によるしつけA⑤(同左) B⑥両面接着テープ⑦あて紙(トレーシングペーパー)⑧試長の両端のしつけ

結果 1. 縫いずれ量 条件①では3針/cm, ②では8-2000g, ③では6秒/30cmの時に最大となった。布目方向では↓↘に比して↔のずれ量、変動が顕著であった。ずれは上布の伸びと下布の縫いつれにより生じ、放置することにより5~7%程度の回復があった。 2. 縫いずれ防止法 条件⑥両面接着テープ、⑦あて紙がずれ量が少なく効果的であった。